

呉・東広島

呉市と医師・歯科医師・薬剤師会連携

骨守る取り組み全国表彰

呉市と市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会の4者が連携して骨粗しょう症の重症化を防ぐ取り組みが、公益財団法人「運動器の健康・日本協会」が選ぶ「運動器の健康・日本賞」の奨励賞を受賞した。地域ぐるみでの活動が評価された。骨や筋肉などの健康増進に取り組む団体を表彰する賞で2012年から始まり、県内の団体の受賞は初という。

(池本泰尚)



取り組みについて説明する寺元医師

治療継続促進や副作用ケア

4者でつくる市地域保健対策協議会が、骨粗しょう症の重症化予防に特化した委員会を内部に設置。17年から活動を始めた。市民を健康な人、治療中の人、治療を中断した人の3グループに分け、予防・啓発や治療の維持、再開などを目指して協力した。

骨粗しょう症は投薬などの治療の継続で骨折などの重症化を防ぐことができる一方、自覚症状がほとんどないため、自己判断で治療を中断する人も多い。市はレセプト(診療報酬明細書)データから中断者を追跡して連絡。19年度には187人に手紙や電話で連絡し、58人が再受診したという。

市薬剤師会はアンケートを実施するなどし、治療を継続してもらう仕組みづくりを模索。市医師会と市歯科医師会は、治療薬の副作用が歯科治療に悪影響として現れるケースがあることから、連携して治療順序を調整するなどした。

委員長を務める呉共済病院(呉市)整形外科部長の寺元秀文医師は「健康寿命の延伸や医療費の減少など、長い期間で効果が出てくると思う。呉の取り組みが県や全国に広がってほしい」と話す。

一般社団法人
はなまる
相続
相談
無料
フリーダイヤル
☎0120
-563
-870